

## 【AP/FD用語解説】 「ルーブリック」とは

米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、学生が何を学修するのかを示す「評価規準」と、学生が学修到達しているレベルを示す具体的な「評価基準」を示すマトリクス形式で示す評価指標である。到達レベルを数段階に分け、各レベルにはそのレベルを満たした場合の「特徴」を記述する。この記述により達成水準が明確化されるので、他の手段では困難な、パフォーマンス(思考・判断、スキルなど)の定性的な評価に向くとされている。評価者と被評価者の双方に評価規準と評価基準をあらかじめ提示して評価の観

点を可視化することができると共に、被評価者への答案やレポートのフィードバックを促進する上で有効である。また、複数の評価者がいる場合、評価者ごとのズレの発生を抑制し、評価の標準化ができるというメリットもある。

(中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」(平成24年8月28日)の用語集および中教審大学教育部会(平成23年12月9日)での濱名 篤委員の説明資料を基に編集)

### 講義型授業におけるルーブリックの例

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる (履修目標)	やや努力を要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を要する
理解度 (35%)	授業内容を 超えた自主的な 学修による 理解が認められる	授業内容をほぼ 100%理解している。	到達目標は 理解しているが、 授業内容の理解に 不足がある。	到達目標に 達していることが 認められる。	到達目標に 達していない。
課題解法 能力 (35%)	解法が分からない 他人にアドバイスが できる。	何も参照せずに 独自の能力で課題を 解くことができる。	参考書などを 参考にすれば、 独自で課題を 解くことができる。	他人のアドバイスが あれば課題を 解くことができる。	他人のアドバイスが あっても自発的に 課題を解くことが できない。
調査能力 (予習) (30%)	自ら進んで予習範囲 を越えて調べている。	予習範囲を十分に 理解し、他人に 説明できる。	指示した 予習範囲の 理解にあいまいな 点がある。	指示された範囲は 予習するが、理解が 不十分である。	指示された 範囲は予習が 不十分である。

※評価項目の( )は評価の割合を示しています。

※本例では、用語解説本文中の「評価規準」に相当する部分が「評価項目」と表記されています。